

2023年3月8日

各位

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社

**21 世紀金融行動原則「2022 年度最優良取組事例 環境大臣賞(総合部門)」  
の受賞について**

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社(取締役執行役社長:高倉 透、以下「当社」)は、21 世紀金融行動原則(正式名称:持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則)の最優良取組事例選定委員会が選定する「2022 年度最優良取組事例 環境大臣賞(総合部門)」を受賞しましたのでお知らせします。昨年度の「特別賞 選定委員長賞(地域部門)」に続く2年連続の受賞になります。

「21 世紀金融行動原則」は、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として2011年10月に策定されたもので、現在、約300社の金融機関が署名しています。当社は21世紀金融行動原則起草時からのメンバーとして、積極的に取組に参画し、その発展に貢献してまいりました。

当社は、2019年3月には資金用途を特定しない融資商品「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の商品化に先駆的に取組み、その後も株式投資ファンドの開発や様々なプレーヤーからの各種アドバイザリー業務の受託など、広範な商品・サービスのラインアップを揃えてきましたが、こうした幅広いインパクトビジネスの展開が評価され、今回の受賞に至りました。

インパクトファイナンスに対する関心が世界的にも急速に高まっています。当社は当該分野のリーディングカンパニーを自負しており、今後ともマーケットの拡大に貢献するとともに、お客さまの企業価値向上に貢献することを目指してまいります。

取組名称:インパクトビジネスの展開

受賞理由:

- ・ サステナブルファイナンス分野では一貫してリーディングカンパニーである同社が、国内のインパクトファイナンスを先導しようという本気度を感じる取組である。
- ・ 地域金融機関を含め国内においてもインパクトファイナンスに関心が高まっているが、この取組は今後の日本の金融機関にとってモデルになるものである。
- ・ インパクト金融志向宣言や金融庁勉強会などへの参加など、インパクトファイナンスに関する研究や普及に取組む意識の高さも評価できる。
- ・ 2022年9月末現在7,176億円という実績を達成していることは、経済的なリターンと合わせ社会的リターンを追求するインパクトファイナンスが、持続可能な社会への歩みを早めるために金融機関が主体的な役割を果たすことを体現している。

以上の理由から本取組を環境大臣賞に選定する。

以上